

令和3年度

いのち・愛・ゆめセンター（豊川・沢良宜・総持寺）における事業概要

【概要】

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、4月25日から6月20日まで貸館業務等は休止としていたが、相談事業は継続して行った。6月21日以降も緊急事態宣言期間はあったが休止まではせず、時短営業や大声での歓声・声援等があると想定されるものについて利用定員の50%以下とする等の利用制限を設けながら開館し、自主事業についてもできる範囲で実施した。令和4年3月に各館の祭り事業を初めての同時開催として計画し、オミクロン株のまん延に伴い各館規模の縮小を余儀なくされたが同時開催することができた。年間通して、コロナ禍という想定のもとできる事業を関係団体等とも連携し、創意工夫により昨年度より更に取組めた1年であった。

【取り組んだ主な事業内容】※新規事業や特記すべき事業を掲載

事業名	総合相談事業	巡回展示会「流行病と新型コロナ～100年後の人たちへ」&「ダイバーシティアート展」	【新規事業】多文化共生支援事業IMS(イムス)
内 容	内 容： センターの基幹事業である総合相談事業は、人権をはじめ、暮らしの中で生じる様々な相談に応じ、相談者に寄り添いながら、関係機関と連携し、課題解決に取り組んでいる。今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、ワクチン接種の予約支援を始め、コロナ禍に起因する各種給付金等の手続き相談や減収・解雇等による生活不安の相談等は継続している。 相談件数（うちコロナ関係の件数）： 【豊 川】 488件（39件） 前年度 931件（128件） 【沢良宜】 553件（48件） 前年度 740件（114件） 【総持寺】 451件（13件） 前年度 778件（50件） （令和4年2月末現在） コロナウイルスに関する主な相談内容： ・ワクチン接種の予約支援 ・コロナ給付金の申請補助 ・自宅療養中の方の支援 ・ワクチンパスポートの取得支援 ・ワクチン接種後の発熱等の症状のため心が不安定という方への寄り添い ・コロナ離職により減収し、生活していくことが困難等	内 容： 観覧者の分散化や遠出がしにくい時代に合わせて、巡回展示というかたちで2事業を行った。他市との広域連携や3館及び中央（市役所）にも会場を設定する等集客方法を工夫した。  ①「流行病と新型コロナ～100年後の人たちへ」6/26～9/4 新型コロナウイルス感染症に関する現代資料と流行病についての歴史資料を同時に展示する展示会を開催。これまでとこれからの流行病と人間の関わり方を考えるヒントにしてみようことを目的とした。吹田市立博物館と共催。鑑賞者数：947人 ②「障害のある人もない人も共につくるアート展 創（SORA）」12/2～1/12 2019年度から総持寺で始めたアート展を、障害の有無や、年齢・性別・国籍等を問わず、みんなで作るダイバーシティなアート展として開催。会場に市立ギャラリーを追加し、集客だけでなく、愛センターを知ってもらい良い機会となった。次年度以降も継続していきたい。鑑賞者数：約700人 	内 容： 地域共生支援の一環として、令和3年9月から外国人住民等を対象とした多文化共生支援事業を開始。IMS(Ibaraki Multicultural Space)と称し、日本語能力が十分でない外国人への交流の場と学びの機会の提供、地域の理解の醸成や居場所の創設、サポーターの育成等、多文化共生の推進に向けた取組みを行った。 具体的な事業としては、①ZOOMを活用してのオンライン交流会「りっぷるるーむ」、②対面での交流や居場所の提供としての「ツドイバ（TSU・DO・I・B・A）」、③多文化共生推進を市民に広く周知・アピールするため機会として、I B A L A B@広場を使った交流会等を行った。また、市長を交えたタウンミーティング「みんなで考える多文化共生のまちづくり」を実施し、日本に住む留学生や外国人労働者や関係団体の方々も参加した。  

令和3年度

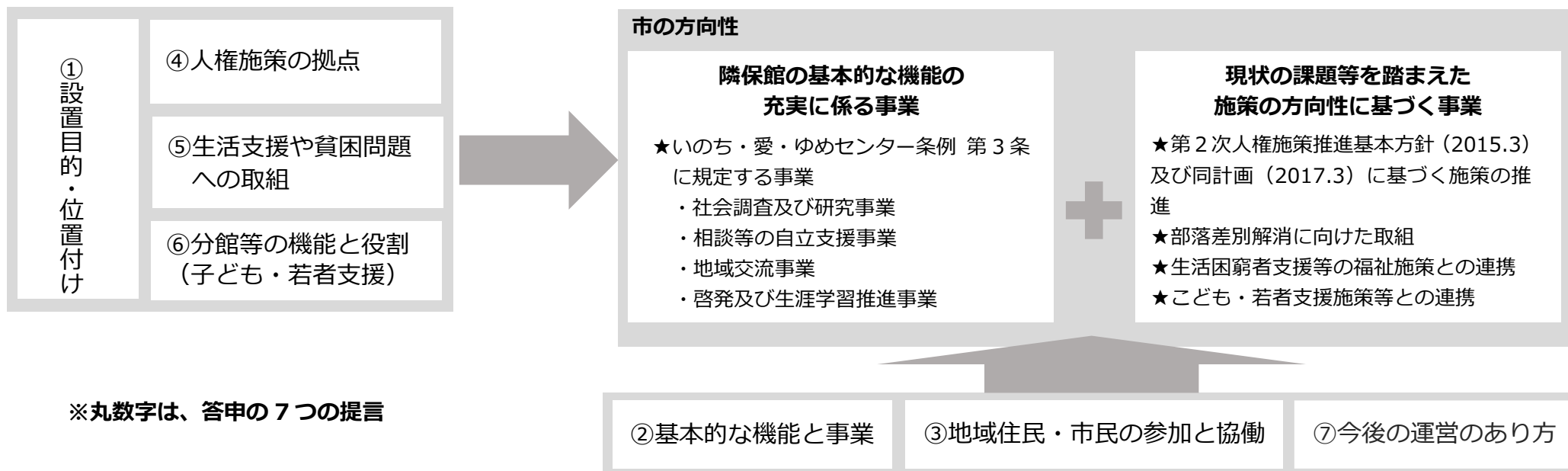
各いのち・愛・ゆめセンターにおける主な独自事業

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、感染拡大防止対策を講じながら独自事業に取り組んだ。具体的には、来館者の分散と3密対策を意識した展示会、**ステイホーム疲れした子ども達に向けたイベント、今だからできる市や地域への期待や想いの共有イベント**など趣向を凝らして実施した。

館名	豊川いのち・愛・ゆめセンター	沢良宜いのち・愛・ゆめセンター	総持寺いのち・愛・ゆめセンター
事業名	写真展「悼む」「いとなむ」	沢良宜版多文化共生プロジェクト	施設長寿命化に向けた改修と人権講座の充実
内容等	内 容：地域の写真家の方の協力を得て、病院・コロナ療養施設等コロナ禍における最前線で活動されている方の姿・考えに触れられる写真展及び映画会、トーク企画を開催。その趣旨から新聞等に複数回掲載されたこと、また、コロナ関係ということで、府の健康マイレージ事業とも連携できたおかげで、300人近くの方に来所いただき、コロナ差別についての啓発につながった。また、これまで隣保館を訪れたことのない方には、隣保館の意義を知る機会ともなり、関係人口を増やすことにもつながった。   	内 容：葦原小学校は茨木市内でも一番外国人住民が多く（令和3年10月末現在）、特に技能実習生として来日するベトナム人が多い。その地域性に着目し、ベトナム人講師によるベトナム語連続講座を実施した。講座では、単なる語学だけではなく、ベトナムの日常や文化を動画で紹介したり、技能実習生を講師として数名お招きしてグループで交流したり等五感を使った、一味違う講座になるよう工夫した。  内 容：人権啓発の取組みとして、人権連続講座を地域団体等と連携して年間3回実施。うち1回をインドネシア出身のローフィ氏に日本とインドネシアの文化の違いや日本に来て経験した差別事例等について講演いただき、外国人の人権や多文化共生について考える機会となった。  	内 容：本館外壁改修・屋上防水工事に加え、空調機の一斉更新（本館部分）を実施。コロナ禍での換気と空調効率を改善を図った。正面3階部分にはセンター名とトレードマークを標した看板を新たに設置した。  内 容：人権啓発の取組みとして人権連続講座を年間5回実施。部落差別、障害、LGBT、ヘイトスピーチ等、差別・排除に関する諸問題について市民対象講座を行った。また、近隣小学校も協力のもと、SDGsに関する取組みや、平和、人権に関する展示や講演会を開催した。  

「いのち・愛・ゆめセンター」に関する市の方向性と取組について

審議会答申（2017.3 7つの提言）から検討した市の方向性



これまでの市の取組と今後の予定

2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
(1) 愛センターの基本的な事業や現状の課題等を踏まえた事業を検討（以降も継続的に検討）相談白書の作成及び分析とその活用 (2) 生活支援・貧困問題について庁内調整（提言⑤） (3) 子ども・若者支援の観点から分館をユースプラザ事業として利用検討（提言⑥）	(1) 地域課題解決に向けた地域避難訓練事業（提言②③、豊川） (2) 第2次市総合保健福祉計画の中でいのち・愛・ゆめセンターとの連携を明記（提言⑤） (3) 7月からユースプラザ事業を実施（提言⑥）	(1) 地域防災力強化事業：H30年3月に豊川で実施した避難訓練の検証、次年度実施に向けての協議（提言②③⑤） (2) 地域課題解決に向けた外国人住民サポート事業の実施（提言②③④⑤、沢良宜） (3) 地域課題解決に向けた就労支援事業の拡充（提言②④⑤、総持寺：既存の相談事業の横出しとして実施）	(1) <新規> 暮らし設計支援事業の実施（提言①②③④⑤） (2) 地域課題解決に向けた外国人住民サポート事業の実施（提言①②③④⑤） (3) <新規> 写真展（提言③④、豊川） (4) <新規> 壁画アートプロジェクト（提言③④、沢良宜） (5) 子ども対象事業の充実（提言③④、総持寺） (6) 障害のある人もない人もとつくるアート展（提言③④）	(1) 防災訓練の実施（地域と連携した避難訓練、避難所運営訓練）（提言①②③④⑤、豊川・総持寺） (2) <新規> オンラインを活用した多文化交流・日本語教育の実施と多文化共生サロンの開設（提言①②③④⑤） (3) 写真展（提言③④、豊川） (4) 障害者の活躍の場（アートなど）の推進（提言①②③④⑤） (5) <新規> ポケット wifi の設置及び館内 wifi 化の検証（提言②⑦） (6) <新規> 巡回展示会（コロナ展）（提言④）	(1) 防災訓練の実施（地域と連携した夜間避難訓練、宿泊避難所運営訓練）（提言①②③④⑤、豊川） (2) オンラインを活用した多文化交流・日本語教育の実施と多文化共生サロンの拡充（提言①②③④⑤） (3) <新規> 多文化共生における庁内や各種支援団体との円滑な連携に向けたコーディネート機能の強化・外国人も安心して暮らせるための当事者を対象とした災害訓練の実施（提言①②③④⑤） (4) 障害者の活躍の場（アートなど）の推進（提言①②③④⑤） (5) ポケット wifi の設置及び館内 wifi 化の検証（提言②⑦） (6) 中高年を対象とした地域人材の育成や交流・居場所づくりのための連続講座の実施（提言①②③④⑤）